



卒業・学年修了に向けて

本日1月22日、吉井中学校で入学説明会がありました。今年度の6年生は、全員が吉井中学校に入学を予定しています。いよいよ、卒業が目の前になってきました。

現在のコロナ感染症の状況のまま佐世保市のフェーズが4から3以下に下がらないと、通常の形での卒業式の開催は難しくなります。しかし、卒業生も、在校生も、この卒業式に向けた取り組みの中で心の成長を果たし、次の学年にあがる心構えをつくっていきます。その経験ができないのは、子供たちにとって非常に残念なことです。

2月に予定していた授業参観も、残念ながら今の状況では中止せざるを得ません。しかし、1年間不安定な中、子供の成長を支えてくださったご家庭の皆様、何らかの方法でお伝えできないかと、学年のまとめに向け、職員で知恵を絞っていきたいと思います。



校長室の窓から④ 「けんかはしていいの？」

* 今どきの中学生

ある中学校の方の話です。「最近の中学生は、周りの人のことをひどく気にします。」と言われました。子供たちの訴えは「〇〇さんは、私のことを悪く言っていると思う。」「でも、自分で確かめる勇氣はない。」「誰か何とかして。」「……。トラブルの時に自分で解決できず、というよりコミュニケーションをうまくとれないことが新たなトラブルにつながっているというのです。その子の育ちを見ると、小さい時からおりこうさんだったり、トラブルも大人に解決してもらったりと自分で乗り越えていない様子がうかがえます。

* うなずくだけの子供たち

子供の育ちの中で、自分の気持ちを自分の言葉でちゃんと伝えることはコミュニケーションの基本で、とっても大切なことです。本校でも朝から体温を測りそびれた子供たちが、職員室に検温に来ます。中にはだまって検温カードを差し出す子もいます。職員が「どうしたの?」「熱を測りに来たの?」と声をかけると黙ってうなずきます。そんな子には「はい、ちゃんと自分の言葉で言いましょ。」と促すと、ちゃんと言うことができます。大人は忙しくて、ついつい子供の言葉を待たずに代わりに言ってしまったりするものですが、まずは自分のことを自分の口で言えることは、子供たちにとって大変大事なことです。

* けんかも立派な自己主張!

小学校では大抵「お友達と仲良くしなさい」と教えられます。ですので子供たちは「けんかはしたらいけない」と思い込んでいます。果たしてそうでしょうか? 勿論相手を傷つけるけんかはだめですが、自分の気持ちを伝える口げんかはとっても大切な育ちのための階段だと思います。仲良くするために自分の気持ちを言わないで押し殺してしまう。そうすると、大事なことまで言えなくなってしまいます。大事なのは「自分は~思ってる」「~だから~したんだ。」というようにちゃんと自己主張ができることだと思います。そのうえで、相手の主張にも耳を傾け、折り合いをつけていく。この折り合いをつけるという経験がとっても大切だと思うのです。自分の主張をせず、解決を常に親や先生に頼っていると、子供はせっかくの成長のチャンスを失ってしまいます。トラブルは成長するための大事なチャンスだと思います。



育ちの中での子供たちの小さなけんか。親への口答えも自立の大事な通過点かもですね。そっと見守り、時には正面切って受け止め、時には厳しく諭し、聞き上手になって応援してあげてください。きっといつの間にかけんかしなくても上手にコミュニケーションが取れるようになることでしょう。

佐世保市図画工作作品展・ふれあい作品展

1月に開催予定だった佐世保市図画工作作品展・ふれあい作品展が残念ながら中止になりましたので、校内に展示し、先日オンラインで表彰いたしました。

表彰されたのは次の子供たちです。どれも子供らしい感性豊かな力作揃いでした。島瀬美術館に飾ってあげたかったですね。(カラーで見たい方はぜひHPへ)



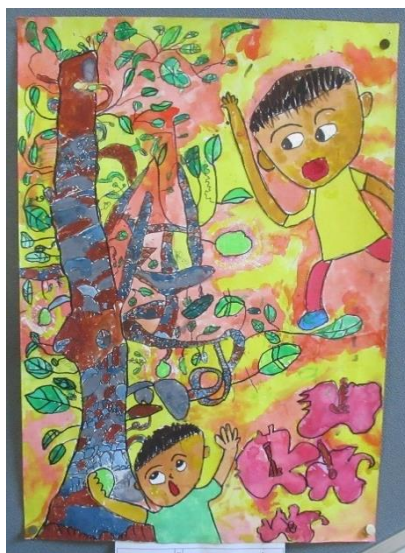
「ショベルカー」1年 川畑はる



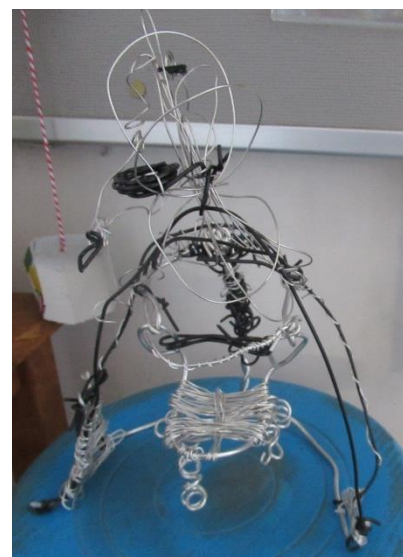
「バスにのって水ぞくかんに行ったよ」1年 七種ゆうと



「海底にすむ魚たち」
4年 川本たくみ



「きらきらした木の实」
3年 濱崎ゆうしん



「ふしぎなブランコ」
5年 吉田ゆの



「たこちゃんドラム」2年 田上きひな



「教会」6年 吉田さゆり